

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会  
第18回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2010年2月2日 (火) 13:30~16:20
2. 場所 日本原子力技術協会C・D会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略) (開始時)  
(出席委員) 阿部(主査), 片寄(幹事), 大浦, 柏木, 河西, 坂下, 櫻井, 七田, 武部, 目黒,  
中瀬, 中山 (13:40出席), 飯田, 脇, 水越, 宮本 (16名)  
(欠席委員) 岡本副主査 (1名)  
(常時参加者) 伊藤, 大間, 御子柴, 水井, 満田, 小倉, 野村 (7名)  
(欠席常時参加者) 藤井, 三根, 菊池, 中山 (4名)  
(傍聴) 前田, 森山, 吉田, 杉山, 鯉淵, 木原, 天澤 (6名)  
(事務局) 谷井
4. 配付資料  
F9Ph2SC18-1 第17回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案  
F9Ph2SC18-2-1 原子燃料サイクル専門部会活動状況報告  
F9Ph2SC18-2-2 標準委員会の活動状況  
F9Ph2SC18-3 人事について  
F9Ph2SC18-4-1 トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び品質確認方法 (仮称)  
の中間報告結果  
F9Ph2SC18-4-2 トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び品質確認方法 (仮  
称): 2000 (案)  
F9Ph2SC18-4-3 【本報告】「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び品質確認  
方法 (仮称)」(案)  
F9Ph2SC18-4-4 本報告 (概要)「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び品質  
確認方法 (仮称)」(案)  
F9Ph2SC18-5-1 ピット処分対象廃棄物の特徴と廃棄物形態について  
F9Ph2SC18-5-2 ピット処分対象廃棄体の製作における技術要件について  
F9Ph2SC18-6 「品質確認」の用語について  
F9Ph2SC18-7 「LLW 廃棄体等製作・管理分科会」の予定案  
F9Ph2SC18-参考-1 L1 廃棄体品質確認標準の第34回標準委員会中間報告に対するコメン  
ト対応 (案)
5. 議事  
(1) 出席委員の確認  
事務局より, 開始時に 15 名の委員の出席があり, 分科会成立に必要な委員数 (12 名以上) を

満足している旨の報告が行われた。

(2) 前回議事録(案)の確認(F9Ph2SC18-1)

事務局より、第17回LLW廃棄体等製作・管理分科会の議事録(案)が紹介され、承認された。

(3) 原子燃料サイクル専門部会の活動状況(F9Ph2SC18-2-1)

事務局より、原子燃料サイクル専門部会の活動状況について、説明が行われた。

(4) 標準委員会の活動状況について(F9Ph2SC18-2-2)

事務局より、標準委員会の活動状況について、説明が行われ、その中で「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」標準が12月28日に発行されたことが紹介された。

(5) 人事について

① 承認

常時参加者登録

事務局より、木原 伸二氏((独)日本原子力研究開発機構)、天澤 弘也氏((独)日本原子力研究開発機構)が常時参加者登録を希望されている旨紹介され、決議した結果、常時参加者登録が承認された。

(6) トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査方法の標準案について

片寄幹事より F9Ph2SC18-4-1~4 及び F9Ph2SC18-6 を用いて「トレンチ処分対象廃棄物の埋設に向けた取扱い及び検査方法(仮称)」に対する原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会への中間報告時に出されたご意見を踏まえた本報告案の説明がなされ、審議の結果、次の対応を踏まえた上で、3月3日の原子燃料サイクル専門部会へ本報告を行うことが了承された。

なお、追加の編集的なコメントがある場合は、2月12日までに、片寄幹事へ連絡することとした。

(a) 標準案の内容などについて

- ・ “3.6 廃棄物取扱い単位”の注記2の“なお書き”の“原則として廃棄物埋設確認は、この単位で行われる。”は、これ以外ではできないように受け取られることから、解説図1中の“この一単位、又は複数の単位をまとめて”と合わせたほうが良い。

→ 次のように修文することとした。

“なお、廃棄物埋設確認は、一単位又は複数の単位をまとめて行われる。”

- ・ 原子燃料サイクル専門部会及び標準委員会から出された“品質確認”に関しては、F9Ph2SC18-6資料に基づき、検査、確認及び管理の用語の意味、使用している箇所、用語及び定義の内容などについて審議し、今後、「品質確認」は、「検査」に置き換えることとなった。また、本資料の要旨は、中間報告に対するコメント対応表に反映して、部会、委員会に説明することとした。
- ・ 解説図2の最初のボックス中の“プラント運転”のプラントは、広義すぎる。

→ プラントを適用範囲に示した“原子力発電所”とする。

- ・ 1頁及び表 2～6 に示されている 将来発行予定である“AESJ-SC-F〇〇〇”の表記は、発行を目指した本報告では、指摘されることが考えられるので、この表記方法を事務局で統一見解を示して欲しい。
- ・ “適切に”という修飾詞が使用されているが、あいまいさを指摘されるため、必要性を再度確認して、不要な場合は、削除することとした。
- ・ 図 A.3 の技術要素の“認識性の向上”の位置を、表 A.2 と合わせるよう修正する。
- ・ 使用用語の統一を図る。(まだ、“廃棄物取扱単位”と“取扱単位”が混在して使用されているなど)

(b) JIS Z 8301 準拠について

下記の指摘を含め、再度、JIS に準拠した標準となるように、再確認することとなった。

- ・ 体裁“a) □□□□”については、改行せず、そのまま、本文を続けること。
- ・ 31 頁の参考文献の前には、区切りの“横線”を入れること。

(c) その他

- ・ 本分科会名簿の再確認、所属の記載を行う。
- ・ 誤記（5 頁の不要な改行など）をチェックする。
- ・ 誤植（20,21,60 頁のボックスサイズによる文章の途中切れ、23 頁の“表”の抜けなど）をチェックする。

(7) ピット処分対象廃棄物の製作における技術要件について

柏木委員より F9Ph2SC18-5-1 及び 2 を用いて、“ピット処分対象廃棄物の特徴及び当面の標準化する廃棄体形態の範囲”及び標準化を検討する上で勘案することが必要となる“技術基準から導き出される技術要素及び技術的要件“に関する説明がなされ、審議された。主な審議内容を次に示す。

(a) ピット処分対象廃棄物の特徴及び当面の標準化する廃棄体形態の範囲について

- ・ 角型容器に関して参考にできるような JIS などはあるのか？  
→ 角型容器に関して、JIS に相当する規格などは無いため、この分科会で、今後提出される容器の強度評価結果などを審議して標準化することになる。
- ・ 標準化を検討する上での主な対象廃棄物として、金属、コンクリートだけが挙げられているが、ライニングや配管などに使用される塩ビ等は、発生量が少ないため、主な対象廃棄物としていないのか？また、マイナーな廃棄物の取扱いはどうするのか？  
→ 対象廃棄物を限定させてしまうことは避ける必要があるが、はじめからマイナーなものを取扱っても収束できなくなってしまうため、解体により主として発生するものを中心に検討を進め、検討の過程で必要であると判断されれば、適宜追加して、必要事項（特別な処理）など追記するようにしたい。
- ・ 角型容器の廃棄体形態を先行するが、当然、ドラム缶形態も現状の整理を並行して行った上で、標準化の範囲として次のステップとして考える。

(b) 技術基準から導き出される技術要素及び技術的要件

- ・資料に言及されていないが、蓋締めのひとつとしてボルト締結する場合、密閉性は、どの程度要求されるものとするのか？また、この分科会でこの観点でのボルト締結に関する議論を行うのか？
  - 今後、この分科会で議論することとなるが、今回の対象廃棄物は固型化され、廃棄物自体に汚染拡大防止がなされる廃棄体であることから、容器の密閉性に対する要求度は、当然、低くなると考えられる。余裕深度処分対象廃棄体で議論した内容（国連の危険物輸送や JIS の容器の調査結果を踏まえた定義など）を踏まえ標準化を検討するが、詳細は解説に記載することが適切と考える。
- ・今回、角型容器の廃棄体を標準化するということであるが、ドラム缶も一緒に検討することで、矛盾や手戻りなどによるデメリットを防ぐことが出来るのではないかと？
  - 基本的な内容は、容器形状に寄らないため、角型及びドラム缶共通した考え方を議論するが、個々の固化方法などは、形状に依存する部分も考えられるため、個別に検討したほうが良いと考える。

#### (8) 今後の分科会の予定について

次の原子燃料サイクル専門部会（3月3日を予定）へトレンチ処分の標準に関して本報告を行う予定で進めることとした。

なお、順調にいけば、部会の本報告に対する書面投票に1ヶ月、そのコメント対応とりまとめを行うことを考えると、次回の分科会開催は、5月頃の見込みとなる。

- ・この程度の開催頻度（5月、8月、11月の3回で中間報告のスケジュール）で標準化のスケジュールは大丈夫か？
  - あくまでもマイルストーンであり、検討状況により分科会の開催頻度を調整する可能性はある。

#### 6. その他

次回分科会の日程は別途調整することとした。

なお、溶接協会で検討中の余裕深度処分廃棄体容器の溶接規格の検討内容について、この分科会へ紹介してもらいたいとの主査からの要望が出され、紹介する方向で溶接協会殿との調整を進めることとした。

以 上